

III

大学共通の取組み

2021年度 全学レビュー

【施策】

●「3つの方針」の策定及び改定における基本的な方針について

高等教育機関としての社会的使命を果たすために、淑徳大学学則、淑徳大学大学院学則、淑徳大学教育に関する規則に基づき、三つの方針を策定及び改定における基本的な方針を定めた。

●英語プレイズメントテスト及びアチーブメントテストの試行実施について

淑徳大学高等教育研究開発センターが中心となり、令和5年度の全学共通基礎教育科目にむけて、1年生を対象に3～4月に英語プレイズメントテスト、12～1月にアチーブメントテストを実施した。この試験結果は分析され、次年度以降の英語教育の検討に活用されている。

●数理・データサイエンス・AI教育プログラムの検討について

社会で求められている数理・データサイエンス・AI教育について、キャンパス横断のプロジェクトで検討を行い、コアシラバスの作成や令和4年に向けた課題解決などを行い、令和4年度以降導入する数理・データサイエンス・AI教育の準備を行った。

●「淑徳大学におけるSDGsの取組み」の情報発信について

淑徳大学は、大乘淑徳学園の掲げる理想の社会の実現に向けて行ってきた様々な取り組みに加え、SDGsの達成に向けて積極的に取り組んでいくために、大学HPなどで情報発信を行った。

●千葉県立松戸向陽高等学校との高大連携に関する協定書について

福祉に関する専門的な知識・技術をより深め、大学や専門学校との連携を図ることを目的として、本学との連携協定を進めた。

●神田女学園中学校高等学校との高大連携に関する協定書について

淑徳大学と神田女学園中学校高等学校の両者が教育活動に関する連携のもとに、相互に教育資源等を活用し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的として、高大連携の締結が行われた。

●広報に関する基本方針の策定について

より多くの方々に「淑徳大学の魅力」を知っていただく機会となるよう、効果的かつ統一的な広報を展開していくために、後方に関する基本方針の策定を行った。

●在学生向け学内広報Web媒体「with」創刊について

外部向けとなった大学広報誌「Together」のリニューアルに伴い、内部向け広報として淑徳生が企画・執筆・編集を行い、他の淑徳生たちに向けた広報を行うことを目的とした大学広報Webコンテンツ「with」が創刊された。

【調査・報告書の発行】

●『2020年度卒業時調査』及び『卒業後調査』の報告書やレポートの発行（5月）

2021年3月に実施した卒業時調査の報告書やレポートを作成し、大学のホームページで学内外に広く公開している。

●2021年度「学修行動等に関する調査」の実施

「学修行動等に関する調査」は2015年度から毎年実施され、調査結果を成長測定や学習支援の評価を行う根拠資料としており、2021年度も実施した。

大学教育課程編成委員会

関連方針	淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)
関連成果指標	

第1部

III

大学共通の取組み

1 2021年度の目標及び計画

Action・Plan

- (1) 2023(令和5)年度からの全学共通基礎教育科目実施に向けて、高等教育研究開発センターなどの他組織と連携し、教職員に対して全学共通基礎教育科目の理解を深めるFD/SDを実施する。
- (2) 高等教育研究開発センターが主体となって行っている教育評価に関する授業アンケートの分析を行う。また学修等行動調査を用いて、DP及びCPの評価を年度終わりに行う。

2 計画の取組み状況

Do

- (1) 2021年度淑徳大学第2回特別研修会(FD・SD)を8月18日(水)14時~15時半に専任教職員及び兼任教員を対象としてオンライン開催した。演題は「令和5年度全学共通基礎教育科目」とし、令和5年度の全学共通基礎教育科目の概要、英語教育の取組み、数理・データサイエンス・AI教育の実施に関する報告がなされた。また研修会終了後オンデマンド配信を行った。

根拠資料 2021年度 淑徳大学 第2回特別研修会(FD・SD)の開催について(参加依頼)、淑徳大学 第2回特別研修会(FD・SD)当日配布スライド(資料)、2021年度淑徳大学第2回特別研修会アンケート集計結果(0904確定)

- (2) 2020年度の授業アンケートは集計及び「学生の評価が高く、学習行動を促進しているのはどのような授業か」を探索的に分析した結果をとりまとめ、報告書として学内に共有し、大学のホームページで公表している。

DP及びCPの評価に関しては、内部質保証推進委員会で「三つの方針」の策定及び改訂における基本的な方針について」を策定してはいるが、学修行動調査を用いての評価までは実施できていない。

根拠資料 2020年度淑徳大学授業アンケート全学報告書

- (3) 令和5年度の新学部及び新学科の設置届出及び全学基礎共通教育科目の実施などから、看護学科、教職課程(ICT及び教職科目統一化)、数理・データサイエンス・AI教育、大学院学則、総合福祉研究科心理学専攻、経営学部(経営学科・観光経営学科)、人文学部のカリキュラムの変更について検討を行った。

また実務家教員の教育課程編成への参画に関して、淑徳大学教育課程編成に関する申合せの改訂を行った。

根拠資料 2021年度教育課程編成委員会次第及び資料、淑徳大学教育課程編成に関する申合せ、全学科点検・評価結果、履修体系図、大学及び全学科3つの方針 学修行動等調査、アセスメントプラン

3 点検・評価

Check

- (1) 研修会の参加者(アンケート回答者)は、専任教員160名、専任職員67名、非常勤教員56名であり、非常勤教員は千葉キャンパスからの参加が6割であった。研修会のアンケート結果から、全学共通基礎教育科目の理解に関する設問の肯定的回答(理解できた)は97.9%、今後の仕事において参考になるかの肯定的回答(参考になる)は97.2%であり、研修の目的は一定程度果たせている。

しかし、研修内容は全学基礎教育科目の大枠、英語教育、数理・データサイエンス・AI教育の報告にとどまり、2022年3月時点では英語教育や数理・データサイエンス・AI教育の検討もだいたい進んでいることから、今後も引き続き学内の構成員及び大学外へ全学共通基礎教育科目「S-BASIC」を発信していく必要がある。

- (2) 2020年度の授業アンケートの分析はコロナ禍の中での授業の分析であり、対面が増えた2021年度の結果については同様の分析を行い、FDなどで活用する。またDP及びCPの評価については、学生調査の結果だけではなく、各学位プログラムの自己点検・評価結果も踏まえて実施することがもとめられているため、結果が出そろっていない2022年3月には実施せず、2022年度の早い時期に実施する必要がある。

- (3) 2021年度のカリキュラム及び学則変更の検討は、令和5年度の変更も前倒しで検討しているため、

例年より多くの件数であり、学則の変更は年度が混在しないように留意する必要がある。また今後も教育課程編成の検討に関しては学修者本位であること、組織としての教育であることを前提として検討をしていくことが求められる。

4 改善方策及び改善計画

Action

- (1) スムーズに2023（令和5）年度の全学基礎教育科目に導入するため、令和4年度に先行して実施する英語教育や数理・データサイエンス・AI教育の点検及び改善、コアシラバス作成や説明会などを実施する。
- (2) 学修行動調査や各種学生調査、学位プログラムの自己点検・評価結果を踏まえて、DP及びCPの点検・評価を2022年6月までに実施する。
- (3) 教育課程編成の検討については、学修者本位の教育であるかどうかなどの観点から実施する。

次期評価実施年度	2022年度
----------	--------

大学教務委員会

関連方針	教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
関連成果指標	

第1部
III
大学共通の取組み

1 2021年度の目標及び計画

Action・Plan

- (1) 学長諮問事項に対する各キャンパスの連絡調整、意見収集、進捗状況の確認を行う。
- (2) 3期大学評価(認証評価)受審結果に基づく改善工程表の指摘内容に対する確認を行い、改善策を検討する。
ア. 単位の実質化に関わる事項(GPA制度、CAP制度)の検討
- (3) 大学共通の英語教育に係るプレースメントテストの試行実施に向けて、高等教育研究開発センターと協働しながら進める。
- (4) 感染症対策及び授業保障について各キャンパスの状況の確認、情報共有を行う。

2 計画の取組み状況

Do

- (1) 学長諮問事項に対する各キャンパスの連絡調整、意見収集、進捗状況の確認を行う。
第1回委員会では(3)に記載する英語教育に係るアチーブメントテストの試行実施について、第2回委員会では令和5年度以降の教育システム諮問事項に対し、各キャンパスの現状確認、課題抽出を行った。教育課程や学部から、各キャンパスの運用の相違点を確認し、教育システム実施を踏まえた課題を明確にした。

根拠資料 2021年度 第1回 第2回大学教務委員会議事録、令和5年度以降の教育システムについての検討に関する報告書(回答)、令和5年度へ向けた教育システム実施検討事項一覧

- (2) 3期大学評価(認証評価)受審結果に基づく改善工程表の指摘内容に対する確認を行い、改善策を検討する。
ア. 前学期には各キャンパスにおけるGPA制度(GPA除外科目、履修登録変更の要件)のロードマップを通じて進捗状況の把握を行った。後学期には、GPA除外科目を全学的に認定単位科目のみとするために、各キャンパスで規程の改正を実施し、2022年度入学生以降全学的に統一した運用を施行することとなった。

根拠資料 2021年度 第1回大学教務委員会議事録、GPA除外科目の統一に向けたロードマップ

- (3) 大学共通の英語教育に係るプレースメントテストの試行実施に向けて、高等教育研究開発センターと協働しながら進める。
学長からの諮問により、大学共通の英語教育に係るアチーブメントテストの試行実施に向けて、第1回委員会での協議および高等教育研究開発センターと連携を図った。科目との関連性を鑑み、いずれのテストも成績評価へ組み入れることとし、共通シラバスへ明記する事項(評価方法、評価基準、フィードバック方法等)の統一化を高等教育研究開発センターへ提案した。調整の結果、多くのキャンパスが2022年度より前倒しで共通シラバスの運用を開始することが出来た。

根拠資料 第1回大学教務委員会議事録、大学共通の英語教育に係るアチーブメントテストの試行実施検討に関する報告書(回答)、英語プレースメントテスト・アチーブメントテスト実施計画

- (4) 感染症対策及び授業保障について各キャンパスの状況の確認、情報共有を行う。
第1回委員会では、後学期の授業実施方針や遠隔授業実施に伴う特例措置のための協議が行われた。また次年度の授業形態や感染症対策、健康管理のための授業保障等について、各キャンパスの検討事項を共有し、委員会を通じて一元的に確認することが出来た。

根拠資料 第1回大学教務委員会記録、令和4年度における新型コロナウイルス感染症に係る授業保障の対応状況

3 点検・評価

Check

- (1) 今年度の取組みとしては、教育システムの方向性を定めるには至らなかったが、委員会としてシステムを実現するにあたっての取組むべき課題および時期を明確にすることができた。
- (2) 各キャンパスの規程改正により、2022年度入学生よりGPA除外科目の統一化を実施することが出来た。CAP制度の見直しについては、教育システムの方向性を踏まえ、今後の全学の方針を確認し、委員会を中心となって現場との調整を進めていく。

- (3) 大学共通の英語教育に係るアチーブメントテストの試行および成績評価への組み入れについて、共通シラバスの実施に伴い、2022年度より取り掛かることができた。
- (4) 学長の授業実施方針を確認し、方針に沿った授業展開を実現するよう検討するとともに、感染症対策と教育効果の担保を両立させるよう学修支援体制を検討した。

4 改善方策及び改善計画

Action

- (1) 教育システムの改革に伴った効果的かつ現実的な運用について、引き続き全学の方針と調整を進める。
- (2) 単位の実質化に向けたCAP制度の見直しを(1)と共に実施検討する。
- (3) 各テストの実施率を向上に向けた検討を進め、共通シラバスの見直しや各キャンパス英語科目担当教員のヒアリング等を行い、高等教育研究開発センターと連携のうえ、現状の改善点を抽出する。
- (4) 学長方針に則った社会情勢に呼応した運用を検討し、学生と教職員の健康と効果的な学修の両立を図るよう、各キャンパスの連絡調整を行う。

次期評価実施年度	2022年度
----------	--------

大学教職課程運営委員会

関連方針	
関連成果指標	

1 2021年度の目標及び計画 Action・Plan

- 教職課程に新規科目（必修）が導入される予定となっていることから、法令内容を確認しつつ、この新規科目に関する審議・検討を行う。
- 教職課程の自己点検・評価の法的義務づけが予定されていることから、法令内容を確認しつつ、淑徳大学としての教職課程の自己点検・評価の実施方針について審議・検討を行う。

2 計画の取組み状況 Do

- 第1回大学教職課程運営委員会を2021年6月16日に開催し、教職課程の新規科目の導入に関して、各キャンパスでの検討状況の報告と検討を行った。この新規科目（ICT事項科目）に関しては、十分な情報が得られていないことが確認されたことから、情報収集の後に改めて検討することとした。10月28日開催の第2回大学教職課程運営委員会において、新規科目（ICT事項科目）に関する継続審議を行い、4キャンパスともに、「教育方法」に関する既存科目の中に新規科目（ICT事項科目）の内容を入れ込む形で法令に対応することとした。なお、この件での文科省への届け出の時期については、なお不安があることから、東京キャンパス学事部長から文科省に照会することとした。後日、文科省への照会の結果、新規科目の導入に関する届け出の時期は令和5年2月末日で問題ないことが確認された。

根拠資料 2021年度大学教職課程運営委員会議事録（2021年6月16日）
2021年度大学教職課程運営委員会議事録（2021年10月28日）

- 10月28日開催の第2回大学教職課程運営委員会において、淑徳大学における教職課程の自己点検・評価の実施方針について、原案（たたき台）に基づいて審議・検討を行った。この結果、内容的には概ね了承されたが、いくつかの点で原案への意見も出されたことから、原案作成の責任者である副学長に委員会でも出された意見を伝え、継続審議とすることとした。その後、この件に関してはメール審議を行い、本委員会としての最終結論を2022年1月に取りまとめた。

根拠資料 2021年度大学教職課程運営委員会議事録（2021年10月28日）

3 点検・評価 Check

- 2021年度は、上記の通り、本委員会として慎重に検討すべき案件が複数あり、しかもコロナ禍の中で対面での委員会開催ができなかったことから、委員会としての意見集約に多くの労力を必要とした。結果的には、2021年度の目標を達成することができた。
- 2022年度から教職課程の自己点検・評価の実施が義務化されるなど、今後も本委員会で慎重に協議を行うべき案件も増えることが予想されることから、副学長の指示に基づき、本委員会規程の改訂を実施し、従来の「連絡調整及び協議」の場から「審議及び連絡調整を行う」場として本委員会の役割を規定したことは、大きな改善点と考える。

4 改善方策及び改善計画 Action

- 新規科目の運用を含め、教職課程の実施状況に関する4キャンパスの情報共有をより円滑かつ密に行う方向で検討する必要があると考える。
- 本委員会が実施すべきことに関する連絡が十分ではない点があり、改善する方向で検討する必要があると考える。

次期評価実施年度	2022年度
----------	--------

大学アドミッションセンター

関連方針	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
関連成果指標	

1 2021年度の目標及び計画

Action・Plan

- (1) 入学者定員の確保、並びに管理（各学部・学科毎として）
- (2) 全学的な大学アドミッションセンター体制の確立（募集、広報、入試）
- (3) 広報の強化充実
- (4) 学部改編に向けての準備対応

2 計画の取組み状況

Do

- (1) コロナ禍に於ける学生募集として2年目となる今年度に於いて、高等学校での進路指導の遅れや、他大学の動向等を勘案し早期での進学先を確定する受験生が増加するであろう仮説の中で、例年以上に年内実施の入試（12月推薦）までに入学者の確保を図るよう取組んできた。

具体的には、通常のオープンキャンパスに加えて、オンラインを活用した大学説明会を多く開催し、本学の特徴や学びの内容について伝える機会を増やした。

また、指定校推薦枠の見直し等も早期に対応した事により、年内実施の入試に於いては、多くの学部、学科で一定の効果があつた。一方で、最終的に入学者定員に達しなかった学部、学科があり、中でも本学開設の礎である社会福祉学科が未達となっており、今後の大きな課題となっている。

根拠資料「2022年度入試 出願、合格、手続き状況」

- (2) 大学アドミッションセンターとして、各オフィスの業務の明確化を共有し、全学横断的な業務体制の確立を図り、学生募集、広報、入試業務それぞれに担当責任者を据え強化、並びに業務の統一化を図りながら取組んでいる。

根拠資料「全学キャンパス担当制」

- (3) 広報の強化について、従来からの手法にとらわれる事なく、受験生、保護者、高校教員、また、社会全般に向けて本学の取組みが発信され、認知度の向上が実現できるよう取組んでいる。

SNS活用の強化、動画による配信、オンラインを活用しての説明会等を積極的に展開している。

また、11月に大学ホームページを刷新し、より対象者に分かり易く伝える事を共有しながら取組んでいる。

- (4) 2023年4月に向けて、新学部、新学科、並びに経営学部の東京キャンパスへの移転について、8月の大学ホームページでの設置構想予定の告知をスタートに新たな展開について取組んでいる。

9月より開設予定以降の入学対象者である高校1・2年生を対象に進学需要調査として新学部、新学科への興味関心や出願に対する需要について訊ねる事を通じて、新たに淑徳大学に作られる予定の学部、学科の概要を高校教員も含めた対象者へ伝えてきた。

また、主要な進学サイトや媒体等で展開している「新学部、学科特集」に情報を掲出し内容について紹介を積極的に行っている。

3 点検・評価

Check

- (1) 入学者定員の確保に於いては、入試制度を含めて検証を続けている。結果として入学者数の確保が出来なかった学部、学科については、合格者数の設定や合否判定の出し方、補欠合格者の出し方、補欠合格者への対応など、更なる改善が必要であると考えている。
- (2) 受験対象者に対して入試に関する情報を、より早期に、分かり易く発信する事により出願に向けての促進に繋げる事への重要性が増している。受験学年前の高校1・2年生を含めて様々な機会を通して発信を続けていく。
- (3) 各予備校にて実施をしている模擬試験の結果等を活用し、志望分野の面で本学設置の学部・学科系統に該当しながらも、まだ本学を意識していない層に向けての情報発信について、これまでの9月実施の模試データの活用から、6月実施の模試受験生への情報発信に改めたことにより一定の効果があつたと捉えている。

4 改善方策及び改善計画

Action

- (1) 毎年設定をしている「学生募集計画」の見直しを図り、時期、募集強化エリア、強化対象層などの精査を行う。
- (2) 教育連携校の拡張を図り、高等学校で積極的に展開されている探求型学習の機会などを通じて、在学生を含めた本学の学び方等との交流を通じて新たな高等学校との連携を図っていく。
- (3) 広報展開に於いても専門業者との連携等を図り、本学の魅力の発信に努めていく。

次期評価実施年度	2022年度
----------	--------

大学教育向上委員会

関連方針	淑徳大学 ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施に関する基本方針と当面の課題、 淑徳大学 スタッフ・ディベロップメント (SD) の実施に関する基本方針と当面の課題
関連成果指標	

1 2021年度の目標及び計画

Action・Plan

- (1) FD・SDの3ヵ年計画(2022～2024年度)を各学部教育向上委員会と連携して策定する。
- (2) 2020年度と同様に2021年度もS-Navi(WEB)で授業アンケートを実施する。授業アンケートの年間回答率の目標は2020年度の年間回答率以上とする。
- (3) シラバスチェックの事例集を作成し、各キャンパスの教務委員会や教育向上委員会などの担当者と共有化を行う。また今年度のシラバスチェックの課題を踏まえて、2021年度のシラバスチェックの計画策定を行う。
- (4) 他組織と連携し、学修等行動調査、卒業時及び卒業後調査など包括的に学生の間接的な学修成果の測定や学習支援等の評価ができるように一体的な見直しを行い、令和4年度から実施できるようにする。

2 計画の取組み状況

Do

- (1) 2023(令和5)年度は、学部新設、全学共通基礎教育科目「S-BASIC」の実施、中期経営計画の1年目となることから、2022～2024年度の三か年のFD・SD計画ではなく、FD及びSDの基本方針と当面の課題に基づき2022年度単年度計画の作成を行った。また2021年度の計画の一部修正を行い1～3月にカリキュラム設計に関する研修会3月に実施した。その他の研修については計画通りに実施している。

また2022年度の計画は1月以降各学部の教育向上委員会で確認するよう依頼を行った。

根拠資料「淑徳大学2021年度・2022年度 FD・SD等計画」

- (2) 2021年度の授業アンケートは2020年度と同様にWEB(S-Navi)の授業アンケート機能を活用して実施した。この授業アンケートは2020年度と同様に遠隔授業を実施した科目があったため、授業アンケートの一部の設問(双方向型の授業は行われたか問う)といった回答が難しいものは無回答も可能として、授業アンケートを実施した。授業アンケートの回答率について、2020年度の前学期は70.29%、後期は61.44%、一方2021年度の前期は61.99%、49.77%であった。また2020年度の授業アンケートの結果については集計及び分析「学生の評価が高く、学習行動を促進しているのはどのような授業か」をとりまとめ、大学内外に公表している。

根拠資料「(最終)202108017 授業アンケート2021前期回答率」「20220201 授業アンケート2021後期回答率(最終)」
「2020年度授業アンケート全学報告書」

- (3) 2021年度シラバスのチェック報告をもとに、シラバスチェック修正事例の一覧を作成し、4月の大学教育向上委員会で共有を図った。また2022年度シラバスのチェックは2021年度に大きな課題がなかったため、2021年度シラバスのチェックと同様に実施している。

根拠資料「2020年度シラバスチェック報告」「2020年度シラバスチェック修正事例」「シラバス第三者チェックについて(2021年11月24日資料)」

- (4) 2021年5月より教職員のプロジェクトとして「淑徳大学の学生向け調査の再設計及び実施・活用の検討」を発足した。このプロジェクトでは全学として実施している学生調査を精査し、教育や学生支援(特に離学防止)など大学の質保証に資する為に調査(学修行動等調査、卒業時調査、卒業1年後調査、新入生調査)の見直しや策定するとともに、調査結果の活用方法について検討を行った。なお、これらの検討結果は2021年度の学修行動等調査より反映がされている。

また調査だけではなく、調査データの活用やスケジュールの明確化、報告のあり方についても検討を行い、学生調査を有益に活用できる素地を検討した。

根拠資料「調査見直しPJ報告書」「2021年度淑徳大学学修行動等調査回答フォーム-Googleフォーム」「卒業時調査設問」「卒業1年後調査」「新入生アンケート」「学生調査の情報提供に関する方針」「調査ガントチャート」「BIツール比較」「卒業1年後調査実施について」

3 点検・評価

Check

- (1) 2021年度のFD・SDの実施については、コロナ禍で一部研修スケジュールの変更があったものの、ほぼ計画通りに実施している。またFD・SDがオンラインで実施したことにより、全学一斉に研修参加できる環境となり、第2～4回の大学特別研修会やFDは70～100名前後の参加者がおり、オンデマンドでの視聴も含めるとかなりの教職員が参加をしていることは評価ができる。翌年度も引き続き同様の形態を検討していく必要がある。
- 2022年度のFD・SDの計画については令和5年度の大学改革の理解に資するための計画を行っているが、キャンパス・学部レベルについては環境に応じて柔軟な対応で出来るように各学部教育向上委員会と連絡を密にしていく必要がある。
- (2) 2021年度の授業アンケートの回答率は目標であった前年度の回答率以上ではなかった。キャンパス別でみるとゼミごとに授業アンケートの案内を実施している東京キャンパスのみ回答率は上昇しているが、千葉キャンパスの回答率は前年度より28%も低い38.67%とキャンパス間で回答率に差がみられる。また千葉・千葉第二・埼玉キャンパスの2021年度後期授業アンケートは授業16回名以降に回答率が伸びていることから、15回目での授業でのアンケート回答の呼びかけなども徹底していく必要があると考えられる。
- (3) シラバスチェックは2021年度から簡素化を行い、負担軽減を図りながら実施できている。千葉第二キャンパスではスプレッドシートを用いて、シラバスチェックのプロセスの簡素化を図るといった工夫もあり、大学として電子化を踏まえたシラバスチェックを今後検討する必要があると考えられる。またシラバスチェック事例一覧は、2022年度シラバスチェックへの参考資料となっている。
- (4) 調査の見直しによる新しい調査は令和4年度からとしていたが、教職協働によるプロジェクトで各メンバーの専門性や経験をふまえ、検討を迅速にすすめたことで令和3年の冬(学修行動等調査)以降に行った調査から反映できており、学生の調査の負担軽減が図れている。また調査の設問だけでなく、調査の学内共有・活用についてもプロジェクトで検討がされ、調査を全学で有効活用できる仕組みづくりはできつつある。

4 改善方策及び改善計画

Action

- (1) 2022年度の計画に基づいたFD・SDの実施及びその効果の測定を踏まえ、中期経営計画や今後の大学のあり方を踏まえた2023(令和5)年度～2025(令和7)年度のFD・SDの3か年計画を策定し、学内に共有を計る。
- (2) 2022年度の授業アンケートの回答率目標を2020年度以上とする。また令和5年度より授業回数8回科目が増えるため、8回科目の授業アンケートの実施・運用について検討を行う。
- (3) 過去の事例も踏まえたシラバスチェックの事例集を作成し、学内に公表・共有化を行う。
- (4) 2022年度から初めて行う新入生調査、大幅な見直しを行った卒業生調査の結果から、退学予防や学生支援、教育評価などに活用できるか分析・検討を行い、2022年秋にFD・SDを開催する。

次期評価実施年度	2022年度
----------	--------